

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教入門	ET/PC	11101	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	必修	2			

授業の到達目標

現代の文化に大きな影響を与えているキリスト教についての理解を深める。また世界で多くの信徒がいるイスラム教や仏教についても基礎知識を身につける。信教の自由は、自分が選んだ宗教を信仰できるという権利であるとともに、他人の信仰を尊重するという義務でもある。従って、どの宗教を選ぶにしろ、いかなる宗教も信じないにしろ、さまざまな宗教について知っておくことは必要である。この授業を通して、KAISEIパーソナリティの異文化理解のIn(国際性)とキリスト教が説く他者に対する隣人愛、K(思いやり)の心を養う。

授業の概要

キリスト教は西暦1世紀に現在のパレスティナに成立し、現在では世界の3大宗教のひとつとされ、現代の文明に計り知れない影響を与えていることは周知の事実である。では、キリスト教とは何か。本講義では、世界の主要な宗教を概観してキリスト教の位置を確認するとともに、ユダヤ人の歴史などキリスト教の成立の背景を考察し、キリスト教の基本的な教えと、その後の発展を検討する。

授業計画

- 1 はじめに 宗教とは
- 2 世界の三大宗教(仏教)
- 3 世界の三大宗教(イスラム教)
- 4 創造神話
- 5 アブラハム
- 6 出エジプト
- 7 カナンへの帰還
- 8 王国の成立と発展
- 9 王国の分裂
- 10 バビロン捕囚
- 11 ユダヤ教の成立とメシア待望
- 12 ナザレのイエス その生涯
- 13 イエスの宣教
- 14 イエスの裁判、十字架上の死と復活
- 15 キリスト教の成立と発展

授業の方法

講義、発問、討議

準備学修

信仰に関係なく聖書は人類の重要な遺産であり、現代人にとっても学ぶところが大きい。関心のある部分を読んで授業にのぞんでもらいたい。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

最低でも3分の2以上の出席が必要である。

テキスト

『聖書』(新共同訳(旧約統編つき)) 日本聖書協会(新共同訳であればどの版でも構わない。)

参考図書

百瀬文晃『キリスト教の輪郭』(女子パウロ会)
井上洋二『キリスト教がよくわかる本』(PHP研究所)

留意事項

この講座は、決して受講生をキリスト教徒にすることを目的としたものではないが、ホスピタリティには相手を受け入れることが不可欠であり、宗教の理解が必要である。その意味でもしっかりと学んで欲しい。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書概論	ET/PC	11105	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
森 陽子	必修	2			

授業の到達目標

聖書について知ること、キリスト教文化圏の人々が常識として持っている知識や習慣、考え方について学び、理解や交流の基盤となるような教養を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)、In(国際性)を目指す。

授業の概要

聖書とはどのような書物かということを知るために、それぞれの内容や特徴を順番に概観していく。聖書が教える普遍的な知恵に触れ、苦しみ、愛、悪、救い、徳などのテーマについて考察する。

授業計画

- 1 イントロダクション
- 2 モーセ5書①
- 3 モーセ5書②
- 4 歴史書
- 5 知恵文学
- 6 預言書
- 7 マルコによる福音書
- 8 マタイによる福音書
- 9 ルカによる福音書
- 10 ヨハネによる福音書
- 11 使徒言行録
- 12 パウロの手紙①
- 13 パウロの手紙②
- 14 全教会への手紙
- 15 黙示録

授業の方法

講義形式だが、意見やコメントも求める。

準備学修

「聖書」(新共同訳の場合は統編つき)の最初にある、創世記1章～3章まで読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規定に従う

テキスト

「聖書」新共同訳 旧約聖書統編付き 日本聖書協会発行

参考図書

「旧約聖書」図解雑学 雨宮慧著 ナツメ社
「いま聖書を学ぶ」曾野綾子著 ワック株式会社
「カトリック教会のカテキズム」カトリック中央協議会 など

留意事項

授業には「聖書」を持参

教員連絡先

moriyoko@kaisei.ac.jp

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教海外研修			11109	I	集中	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

本学と深い関係のあるアジアの聖フランシスコの足跡を辿ることによって大学の建学の精神を具体的に理解することを目的としている。キリスト教の土台にある愛と他者に仕える姿勢を生きたフランシスコの町、アシジを訪れる人の心に深い感銘を与え、人生への生き方に大きな影響力を持つ。この授業ではIn(国際性)に重点を置く。

授業の概要

中世、教会の権力が政治の世界でも強大な力を持ち、キリスト教の本質が危うくなった12世紀後半に現れたフランシスコは聖書に従った生き方を選び、その生き方によって現代に至るまで人々に大きな影響を与えている。ローマとアジアを中心に8泊9日の研修の旅を実施し、フランシスコゆかりの土地や自然、聖堂や絵画を訪ね、鑑賞することでキリスト教の世界の豊かさに触れていく。

授業計画

- 1 研修に出る前の準備のクラス 第1回 イエスの生涯を中心に
- 2 研修に出る前の準備のクラス 第2回 フランシスコの生涯と思想
- 3 研修に関する具体的な準備の集まり
- 4 研修の日程1日目:関西空港から出発ミラノ着
- 5 研修の日程2日目:ミラノにて大聖堂、聖アンブロジオ教会等を訪問
- 6 研修の日程3日目:フィレンツェにて聖マルコ修道院、大聖堂を訪問
- 7 研修の日程4日目:アシジの聖フランシスコ大聖堂、クララ教会等を訪問
- 8 研修の日程4日目:サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会へ
- 9 研修の日程5日目:アシジにてカルチェリの隠遁所を訪ねる
- 10 研修の日程5日目:サンダミアノ修道院へ
- 11 研修の日程6日目:ローマのフォロロマーノ、ラテラノ教会等を訪ねる
- 12 研修の日程7日目:パチカン美術館、特にシステリーナ礼拝堂を訪ねる
- 13 研修の日程7日目:サンピエトロ大聖堂
- 14 研修の日程8日目:日本に向けて出発
- 15 研修の日程9日目:関西空港着

授業の方法

事前の講義と研修旅行。

準備学修

イエスやアシジの聖フランシスコやイタリアについて書物や映像資料などで調べ、基礎知識を身につけておくこと。

課題・評価方法、その他

その他

欠席について

テキスト

川下勝「アシジのフランシスコ」清水書院、2004

参考図書

j.ヨルゲンセン著、佐藤要 訳「アシジの聖フランシスコ」ドン・ボスコ社、1988
 チェラノのトマス著、石井健吾訳「聖フランシスコ第 伝記」あかし書房、1989

留意事項

研修はフランシスコをよりよく理解するためなので、他者と協力し、助け合う精神をもつこと。また、歩いていく所が多いので体力を鍛えておくこと。人間性の豊かさや広さ、深さや多様性に関心をもって望んでほしい。また視野を広げるために、クラスで言及する作品を自主的に読んだり、観賞したりする努力をしてほしい。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書と現代	ET/PC		11113	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 陽子	必修	2				

授業の到達目標

「人間のいのちの尊厳を守る」という、社会におけるキリスト教の根本原理について知り、多様な価値観、多量の情報が行き交う現代世界で、主体的に考え、判断し、行動できることが養われることを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)を学ぶ。

授業の概要

2000年以上前から保管され伝えられている聖書の教えが、社会で行われる人間活動の様々な分野において、どのように生かされているのかを見て行く。

授業計画

- 1 イントロダクション
- 2 社会生活
- 3 教会の社会教説
- 4 社会の目的
- 5 正義の徳
- 6 家族と社会
- 7 経済
- 8 仕事
- 9 環境
- 10 政治
- 11 国家
- 12 世界規模の問題
- 13 平和
- 14 若者と希望
- 15 まとめ

授業の方法

講義形式だが、意見やコメントも求める。

準備学修

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げるので、日頃から問題意識をもって授業に臨んでほしい。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規定に従う。

テキスト

特に定めず、その都度資料を紹介する。

参考図書

「カトリック教会のカテキズム」カトリック中央協議会
 教皇庁正義と平和協議会「教会の社会教説綱要」カトリック中央協議会
 その他、ローマ教皇の諸文書など

留意事項

授業には「聖書」を持参しなくてもよいが、授業で引用された箇所は、自分で確認しておくこと。

教員連絡先

moriyoko@kaisei.ac.jp

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	①/②	11117	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	選択	2			

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教に关しても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

- 1 導入
- 2 聖書と歴史
- 3 出エジプトと歴史研究(1)
- 4 出エジプトと歴史研究(1)
- 5 古代における宇宙観
- 6 古代における天動説と地動説
- 7 中世における天動説
- 8 コペルニクス(1)
- 9 コペルニクス(2)
- 10 ジョルダノ・ブルーノの地動説
- 11 ガリレオ・ガリレイ(1)
- 12 ガリレオガリレイ(2)
- 13 科学の発達とキリスト教
- 14 聖骸布
- 15 まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めない。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	ET①/ET②/ET③/ET④/ET⑤	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子／小野 礼子／佐伯 瑠璃子／白井 昭彦／吉野 美智子	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)オリエンテーション
(2)言語1
- 2 オリエンテーション(図書館の利用方法について)
- 3 (1)言語2
(2)オリエンテーション(記事レポートについて)
- 4 (1)言語3
(2)読書
- 5 (1)言語4
(2)読書
- 6 (1)社会1
(2)プレゼンテーション・ツールの使用法
- 7 (1)社会2
(2)読書
- 8 (1)社会3
(2)読書
- 9 (1)社会4
(2)レポートの書き方
- 10 (1)数学1
(2)レポートの書き方
- 11 (1)数学2
(2)読書
- 12 (1)数学3

- (2)プレゼンテーション
- 13 (1)数学4
(2)プレゼンテーション
- 14 (1)確認試験1
(2)読書
- 15 (1)確認試験2
(2)代表者プレゼンテーション

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

リメディアル 50%（平常点70% 定期試験30%）
後半学習50%（平常点70% eラーニング30%）

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅱ	PC①/PC②/PC③/PC④	11207	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
南 夏世／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	必修	1			

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史について理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学び、並行して行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを確立し、内面的に自らを磨き、自身のキャリアデザインを描く。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけ、チームでプレゼンテーションを作り上げ発表する。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムでは、自身の将来に対する意識を確立させていく。また海星学ⅠⅡを通して、提示されたボランティア活動に参加し、自身の経験や社会性などを育む。授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

- 1 ポートフォリオ(学生カルテ)
- 2 KAISEIパーソナリティの研究発表についての説明
- 3 課外活動についてのディスカッション①
- 4 課外活動についてのディスカッション②
- 5 課外活動についてのまとめ KAISEIパーソナリティの研究項目の選択とチーム確認
- 6 卒業生によるピアサポート①
- 7 卒業生によるピアサポート②
- 8 社会で働く①(キャリアセンター)
- 9 社会で働く②(学科教員)
- 10 テーマについてのグループディスカッションと研究と報告①
- 11 テーマについてのグループディスカッションと研究と報告②
- 12 グループのプレゼンテーションの準備作業
- 13 グループのプレゼンテーションの発表準備
- 14 全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
- 15 ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレゼンテーションなどさまざまな形で行う。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

- ①各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
- ②平常点40%、定期試験30% eラーニング30%

欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、実力テスト診断テストを10クリアさせること。
 教学カルテを入力しておくこと。

教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学Ⅰ	ET/PC	11209	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	必修	2			

授業の到達目標

本学では、キリスト教的人間観に基づく人間教育を基本理念の一つとしている。本講義は、学生が1人の人間として社会に対する責任を果たすことができるよう、現代社会の様々な動きや問題点について考えていく。この授業では、KAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

現代は急速な変化の時代である。私たちはその中で、人ひとりが責任を持って生きていかなければならない。そのためには現代の動きや様々な問題などについて知り、考えることが不可欠である。本講義では、新聞などを利用して、この1、2年に起こった様々な問題について解説し、皆で考えていきたい。

授業計画

- 1 昨年の時事問題(1)
- 2 昨年の時事問題(2)
- 3 1月頃の時事問題
- 4 2月頃の時事問題
- 5 3月頃の時事問題
- 6 4月頃の時事問題
- 7 5月頃の時事問題
- 8 6月頃の時事問題
- 9 7月頃の時事問題
- 10 8月頃の時事問題
- 11 9月頃の時事問題
- 12 10月頃の時事問題
- 13 11月頃の時事問題
- 14 12月頃の時事問題
- 15 この1年の時事問題

授業の方法

講義、演習、発表形式。

準備学修

日々新聞やテレビ、インターネットで時事問題に関心を持ち、興味

を持った事柄については自分で調べてこと。家族や友人ともそのような話題を取り上げて、いろいろな意見を聞くこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

特に定めない

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会科学概論			11377	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	選択	2	私立中学校教員(社会)、私立高等学校(世界史)			

授業の到達目標

本授業では、歴史学のあり方について学ぶ。歴史は小学校から高校まで必ず学ぶ科目であるが、暗記科目と見られることが多い。歴史学者が史料に基づいて如何に過去を明らかにしていくかを体験させる。この授業では、KAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

歴史は決して暗記科目ではなく、史料に基づいて過去を再構成していく営みである。先行研究の成果である通説と対峙しつつ、修正・変更を加えて新しい通説を構築していくのが歴史学の進歩である。本授業ではヨーロッパ中世の開幕に関する諸説を、ピレンヌ理論を中心に紹介し、そのような歴史学の営みを受講生に体験してもらいたい。

授業計画

- 1 はじめに、歴史学とは何か
- 2 時代区分について
- 3 ゲルマン民族の大移動
- 4 古代文化没落説
- 5 古代文化連続説
- 6 ピレンヌ理論の概要
- 7 民族大移動後の地中海世界
- 8 民族大移動後の地中海商業
- 9 イスラム教の成立と発展
- 10 地中海商業の衰退
- 11 地中海商業衰退の政治的影響
- 12 カール1世の戴冠と西欧世界の成立
- 13 ピレンヌ批判(デネット・ジュニア)
- 14 ピレンヌ批判(ポーリン)
- 15 まとめと試験

授業の方法

講義、討論、演習形式。

準備学修

授業内容の背景を知るため、高校の世界の教科書の古代ローマ帝国から中世ヨーロッパの成立、カールの戴冠あたりを読んでおくこと。(60時間)

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は受験資格を認めない。

テキスト

テキストは特に定めなし。随時、史料のプリントを配布。

参考図書

とくに指定しない。

留意事項

私語は慎み、求められたときは積極的に発言すること。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家政学概論			11381	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

学問としての家政学を理解する。家政学の各分野を学ぶことを通して、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

「家政学はどのような学問か」については、諸説が林立している。経済・社会の変化にともなう、家族や生活のあり方が変化し、家政学自体も改革を続けている。この講義では、家政学についての様々な主張を解説し検討することを通して、家政学とは何かにアプローチしたい。さらに、家庭経営、家庭経済、消費者問題、家族関係、食生活、衣生活、住生活、生活情報、生活環境などの各論・各分野についても学ぶこととする。家政学、生活科学、生活環境学などを網羅し概観することで、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身に付け、実践的能力を養う。

授業計画

- 1 様々な家政学
- 2 家政学の定義・目的・対象・方法
- 3 家政学の発展過程と改革
- 4 家庭生活と生活経営
- 5 家庭経済・消費者問題
- 6 家族関係
- 7 食生活 1
- 8 食生活 2
- 9 衣生活 1
- 10 衣生活 2
- 11 住生活 1
- 12 住生活 2
- 13 生活情報
- 14 生活環境
- 15 まとめ

授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

実教出版編集部『生活学Navi』実教出版

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。